

2024年 夏季参加報告書

参加プログラム：SMEAG(TOEICコース)

参加時の学年：4年、学部：社会、学科：社会

今回の留学の目的としては、就活が終わり、学生生活最後の夏休みに今しかできないことがしたいと思ったことと、就職先の企業が海外進出を行っており、英語を自分の武器として用いることが出来れば、海外赴任や留学のチャンスを得られると思ったからである。一か月の留学が終わり、その目的はほとんど達成できたと感じている。海外で一か月過ごすという得難い経験ができ、また、武器と言えるほどの英語力はまだないが、現地の先生や生徒との関わりを通して英語の勉強に対するモチベーションが上がり、日本に帰った後も勉強を続けていくことで、英語力を身に着けることができている。

留学先での生活は、平日は一日勉強漬けであり、日本にいる時には一日中英語を勉強する機会がなかったが、勉強すればするだけその週のテストで良い点が取れることがモチベーションにつながり、辛い思いをすることなく勉強に取り組むことが出来た。また、食堂で同じ席になった人には積極的に話しかけるようにしたことで、他の国の人も交流をすることができ、英語を用いてコミュニケーションを取ることに抵抗感がなくなった。英語を喋ることは苦手だと思っていたが、それは自分が英語を話そうとしていなかっただけで、相手に伝えようという意識を持って喋ると、英語でのコミュニケーションを取ることが出来ることが分かり、拙くても話してみることが Speaking の上達につながると感じた。部屋割は武蔵大学の一人の子と同じ部屋に配属された。もう一人のルームメイトの子は日本人の高校生の子で、全員日本人ということで部屋では気を使わずに過ごすことができた。ルームメイトとなった子達は、海外の大学や大学院に進むことを想定して IELTS のスコアを伸ばそうとしており、海外の大学や大学院に進むことをまったく想定していなかった私にとって、日本にとどまらず、広い視野を持って将来を考えている姿に、自分ももっと広い視野で自分の将来を考えてみようと思わされた。また、一人のルームメイトが日本に帰った後の新しいルームメイトが台湾人だった。その子は英語が堪能で、初めて会った時には一緒に生活していけるか不安だったが、その子がある程度日本語を理解していたことや、コミュニケーションを取ろうと英語で積極的に話しかけるようにしたことで、仲良くなることが出来た。ルームメイトを含む台湾人四人と一緒に出掛ける機会もあり、外国人の子と一緒に遊ぶことが出来たのは、良い思い出になった。フィリピンでの生活は、想像していたよりも快適で、初めての海外だったが、自分が住んでいる国との違いを感じると同時に、実際に生活をしている人を見て、海外を身近に感じる事ができ、他の国にも訪れたいと思った。食堂のご飯も口に合わないと思っていたが、食べてみると美味しく、たびたびお腹を壊す場面はあったが、日本から持参した薬を飲んで持ち直すことが出来た。ただ、フィリピンで一か月暮らして驚いたことは、車に乗っていると外から窓を叩かれてお金を求められたことだ。そういう場面があることは、ガイドンスで聞いていて知っていたが、実際に自分が経験すると、怖さは感じなかったが、窓を叩く人の表情が印象的で、ずっと心に残っている。また、海の上にたくさんの家が建っているエリアがあり、いわゆるスラム街のようになっていて、日本で目にすることはほとんどなかったので、ギリギリの状態で生活している人がこれほどいることに衝撃を受けた。日本で暮らしていると見ることがない場面や経験することのない状況を目の当たりにし、世界には様々な場所があり、様々な状況で暮らしている人がいることが分かった。それを踏まえて、自分の日本での暮らしを客観的に見つめ直すことができ、視野が広がったように思う。

今後の目標としては在学中に TOEIC のテストで 800 点を取ることと、Speaking の向上だ。SMEAG での生活を通して、もっと英語を話せるようになりたいと思ったので、TOEIC の勉強に加えて Speaking の練習も行っていきたい。大学の授業の中には、英語を話す授業があったので秋学期にはそれを履修したいと思っている。また、旅行ではなく、一か月間滞在することでその国のことをより理解できると思ったので、冬季の語学留学も検討し、また海外での経験を積みたい。

